



教育と信仰への思いを語った丹波さん

（能代市中央公民館で）

市民おもしろ塾

教育と信仰を説く 丹波さん半生振り返り

能代市の学校法人のしろ文化学園前理事長の丹波望さん(90)＝同市末広町＝が13日、同市中央公民館で講演した。英語教室・地の塩塾や、専門学校・秋田しらかみ看護学院での実践をテーマに、教科や専門知識にとどまらず「人間の生き方」を学ぶ場となるよう努めてきた半生を振り返った。

中学・高校生を対象とした地の塩塾については「英語の学習塾という言われ方を否定はしないが、それだけにとどまらない思いで教育に当たってきた」と強調。入塾に当たっては、塾生一人ひとりとしつくり面談し、それぞれの長所を自覚するよう促し、ボランティア活動にも参加。巣立った塾生から「生き方、考え方を学べた」と感謝を伝えられたことが何よりうれしかったと振り返った。

秋田しらかみ看護学院は平成10年に開学し、能代山本を中心に多くの看護師を輩出している。丹波さんは「高齢化が急速に進む中、地域に密着して支えてくれる看護師の養成が急務だった」と語った。卒業後の県内への定着率は90%以上という。学生たちには「何よりも強い者が、病気に苦しむ人、弱い人に仕えるのが看護師の思想」と伝え続けてきたという。

国際基督教大(ICU)で学んだ日々を通じ、自身の信仰を確かなものにしたと振り返り「一人ひとりが在ることの意味、それを追求することが人生だと思ってる」と語った。「90歳を迎えた今、ここまで生かされてきた意味、これからすべきミッションが見えてきた」と力を込め「キリスト教にとどまらず、宗派を超えて『祈りを合わせる場』をつくっていききたい」などと話した。